

日本人間関係学会第 27 回全国大会のご挨拶

大会長 藤川君江

日本医療科学大学保健医療学部看護学科

第 27 回大会は、埼玉県入間郡毛呂山町の日本医療科学大学で開催されます。会場の日本医療科学大学のある埼玉県毛呂山町は、埼玉県南西部、都心から 50 キロ圏内という立地とアクセスの良さから東京都内も通勤圏となる町です。四季折々に美しく変化を見せる里山、穏やかな気候と豊かな自然にも恵まれています。ちょっと足を伸ばすと長瀬や秩父があります。全国大会がなければ来る機会がないと思います。是非自然の中で心をリフレッシュして下さい。



現在の日本が抱えている社会問題として、所得格差や少子高齢化、人口減少社会、ハラスメント、いじめ、老老介護、認知介護、LGBT・・・など多くの問題があります。これらの全てに人間関係の問題が存在するのではないだろうか。

私は、過疎地域の一人暮らし男性高齢者の生活について調査をしています。その中から見えてきた一人暮らし男性高齢者の問題は、「身近に頼れる人がいない」「子どもの迷惑をかけたくない」「話し相手がない」など人間関係において孤独と向き合っています。高齢者の楽しみの 1 つは食べることがあります。しかし、硬い物が食べられない、入れ歯が合わない、歯科医院が近くにないから仕方がないと口腔に関する問題があってもそれを問題として捉えていないこともわかりました。

厚生労働省は 2018 年の 100 歳以上の高齢者は全国に 6 万 7,824 人であることを発表しました。100 歳以上の高齢者は、調査が始まった 1963 年は 153 人であったが年々増加しています。まさに「人生 100 年時代」を迎えていると言えます。長寿化した現在、いかに健康寿命を延ばすか様々な視点で研究が進められています。口腔機能の低下は、老化のはじまりを示すサインとして注目されています。高齢者の健康寿命に関わる要因として、口腔の健康状態や口腔ケアを行うこと、歯磨きの頻度と糖尿病と脂質異常症の有病率に関係があることが報告されています。健康寿命の観点からも高齢者の口腔保健行動が注目されています。

今回の全国大会のテーマに「超高齢社会における人間関係とオーラルフレイル」として、高齢者と口腔の問題を一緒に考えたいと思います。皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。